

内藤 由直

『国民文学のストラテジー』

——プロレタリア文学運動批判の理路と隘路——

学位の種類 博士(文学)

授与年月日 二〇〇八年三月三十一日

審査委員

主査 中川 成美

副査 西川 長夫

副査 木村 一信

副査 花崎 育代

論文内容の要旨

本学位請求論文「国民文学のストラテジー——プロレタリア文学運動批判の理路と隘路——」は、戦時下と戦後に巻き起こった「国民文学」をめぐる論争を中心に、その内実について同時代言説と具体的な当時の作品、文学理論から考察したものである。「国民文学」という語彙に事前的に付帯したナショナリズムの再生産装置という単一的な評価を退け、往時の時代状況の中で「国民文学」が持っていたアクチュアリティと限界、またその思考法の複層的な問題項を明らかにしようとする目的をもって、これまでの該当領域では考えられてこなかった概念の提出を目指した研究である。

本論文の構成は、序章「国民文学とは何か」、第一章「戦時下の国民

文学論——政治の優位性論の転倒——」、第二章「林房雄『青年』——国民文学作品への展開——」（附参考資料『青年』書誌、および本文異同詳細）、第三章「戦後国民文学論——言説編制の力学——」、第四章「佐多稲子「みどりの並木道」論——国民文学の本源の蓄積——」、第五章「戦中・戦後の差異と反復——革命運動の理論と天皇制の問題——」、結章「近代の超克へ」、および付録「国民文学文献目録」である。

第一章で、戦中の一九三七年に論争を引き起こした国民文学論および関連作品を、プロレタリア文学（民主主義文学）運動批判の言説として再読、先行する文学論に対する批判的言明としての側面に注目すること、国民文学論が単なる国家主義的な言説ではなく同時代の文学状況を超克しようとする係争的議論であったことを指摘している。同時にそこに看取される前代の反復を剔抉することで、国民文学を枠付けた限界を明らかにしようと試みたが、特にこの章で「国民文学」という概念規定と、その実際的な生成の経緯については、描出されている。具体的には国民文学論・国民文学作品に織り込まれた近代主義批判・組織論批判の側面に注目し、「国民文学」が日本のプロレタリア文学運動に孕まれた問題点を批判的に摂取し揚棄しようとしたものであったことを示し、それらがプロレタリア文学運動批判の論理として理論的必然性を持つて要請された議論であったことを明らかにしようとしたものであるが、同時に「国民文学」が、プロレタリア文学運動の軀となった近代主義（世界性による現場の捨象）・組織的硬直化（政治の優位性論）を反復する結果に陥り、過去の問題点を未解決のまま次代へと存続させていった様相が明らかにされている。

第二章では具体的に林房雄というプロレタリア文学から転向、そしてナショナリズム加担という振幅の大きい文学活動を続けた作家に注目して、彼が戦間期に発表した「青年」を素材に、「国民文学」の根底的な

概念の組成状況にアプローチした。この作品は数度に亙る書き直しが行われているが、内藤氏はこれを精査してその改稿の意図と目的について考察した。プロレタリア文学に見られる創作上の方法論が、改稿を経るにしたがって「国民文学」の概念枠へと近づいていく経過が詳述されている。

第三章では戦後、一九五二年に論壇、文壇、学会など広範な人々によって闘われた国民文学論争を採り上げ、その経緯の説明と共にそこに展開した論争の背景をなす同時代的状況を開きながら、一体そこで何を文学に求めていったかについて追求している。竹内好の提唱に始まり戦後最大の論争となった国民文学論を、言説空間の編成という観点から分析、他者への回路を開きつつ、同時に特定の他者を排除する機制を持つ両義的な議論として国民文学論を位置付け、国民文学論に内包される政治性・暴力的性格があることを指摘している。

第四章では佐多稲子の「みどりの並木道」という小品を採り上げ、戦後民主主義運動と国家弾圧というテーマの中に、第三章で考察した国民という概念化と同時に行為される他者の排除・疎外の諸相を探り、国民的合意という「民主主義」が一方に占領からの解放の中でより強い国民規範として機能してしまう側面を剥出した。

第五章はプロレタリア文学運動批判として提起された戦中・戦後の国民文学論が、その理論的核心において、史的唯物論に基づいたブルジョア革命待望論であったことが指摘されている。しかし、国民文学論はプロレタリア文学運動がブルジョア革命を完遂できなかった問題を採りながら、最重要課題である天皇制の問題を回避していることを明らかにする。ここに国民文学論が持つ近代主義批判・組織論批判の限界を見出し、残された課題が次の論争を生起させた状況が示されている。

結章の「近代の超克へ」では戦中戦後の国民文学論に参加した文学者

たちが、理論的な趨勢として必然として関わらざるを得なかった「近代の超克」論を素材に、国民文学論は日本近代文学の歴史において、どのような問題を残していったのかを、考察しようとする結びである。これは今後の研究方向も指示していることはいうまでも無い。なお、付録の「国民文学文献目録」は明治期より現在へ至るまでに発表された国民文学に関する文献を蒐集・整理した目録で収録件数は、全五〇一件（明治期二六編、戦中期一四一編、戦後三三四編）が収められている。執筆枚数は付録部分を除いて約四三〇枚（四百字詰め換算）である。

論文審査の結果の要旨

論文審査は二〇〇八年七月十一日（金）午後5時から午後7時まで、末川記念会館第二会議室にて公開にて行われた。審査委員は中川成美（主査）、西川長夫（副査）、木村一信（副査）、花崎育代（副査）の4名であり、陪聴者は10名であった。

本研究は、日中戦争下の一九三七年、および戦後占領期の一九五二年に生起した国民文学論争とその同時代文学作品を、プロレタリア文学運動批判の論理、特に「政治と文学」の関係性に対する係争的論理として読み換えることによって、「国民文学」という言葉に内包される諸概念と問題点を析出し、国民文学とは何であったのかという永続的な問いを明らかにしようとした国民国家と文化の関係にまでおよぶ文学研究として認知されるものであろう。先ず、請求者の要旨説明があったが、簡潔にして当を得た口頭説明であり、論文の主眼点、および論理構成の要点が明確にされた。その上で、主査、副査による以下の質疑、評価が交わされた。

これまで文学研究のみならず、文化研究の側面でも看過されがちであった「国民文学」論争に着目したテーマ設定の大きさを、各審査委員

が高く評価した。その上で、このテーマの設定動機について質問がなされたが、一般にナショナリズム論として提出されがちなこの論議を、戦間期のプロレタリア文学との連関から抽出してそこに論議を凝縮することによって、この論争の本質的な部分にアプローチしようとしたとの回答を得た。明治期、大正期の「国民文学」との連続性に付いては、既に修士論文にて考察しており、この博士論文ではテーマをその点に絞ったとのことである。このことによって大きなテーマを扱った論文にありがちな拡散的な印象は払底され、かなり明確な形でプロレタリア文学運動との類縁性が浮上して、論旨が明確となっている。国民国家論との関わりからのアプローチもここで活かされて、国民文学論がもった両義的な性格と、その論理の限界についてが、鮮やかに描出されることになった。

ただ、それがためにおそらくはそこに関与する右翼言説や農民文学からの参画などの描写が欠けることとなったが、口頭による質疑でその点に付いては膨大な量の基礎データを作成して、それらの精査も経ていることが示された。巻末に付された「国民文学文献目録」がその一端であるが、今後それらを含みこんだ研究計画があることも言明された。

総合的にこの論文が高い水準にあることは各審査委員から評価され、特に第二章での林房雄「青年」分析は、文献研究と文学理論研究の双方が見事に結び合った事例として高く評価された。これにはこれまでの海外文献を含めた文学理論、思想研究の蓄積が寄与したものと思われる。

結章で扱われた「近代の超克」についての分析はこれからの方向を示すものである。近年、特に研究人口が減少したプロレタリア文学研究の側面からも将来が期待され、該当分野のみならず広く活躍する資質をもった人材として認知されていくであろうと思われる。

申請者の質疑応答は妥当であり、論旨も明確であった。審査者からは本研究が今後、大きく成長していく可能性をもったものであるという評

価をもって締めくくられた。それは本研究では充分の展開を見なかった国民文学の世界的な現象についてのアプローチ、あるいは植民地主義的な視線でのとらえなおしなどの批判でもあるのだが、戦略的にテーマを収斂させた背景をなす潜在的な実力についても十分に了解して、本研究の公刊を含めた発展を期待する旨が発言された。

試験または学力確認の結果の要旨

申請者は既に、日本近代文学会、昭和文学会など当該分野における審査付き学会誌に5本の論文を発表している。また、その他に国際学会を含む口頭による学会発表5本、翻訳2本、解説1本を行った。学会でのしかるべき評価も受けている。語学力に関しては英語は本論文サマリー、また翻訳で示されたように、充分の能力を有している。竹内好研究との関係から中国語読解能力もある。外国語に関する能力は十分に備わっているものと判断する。なお、二〇〇八年四月以降は本学ポストドクトラルフェローの採択を受け、本学にて研究を続行している。

審査委員は公開審査終了後、審査委員会を開いた。その結果、本学学位規程第十八条第一項により、博士（文学 立命館大学）の学位を授与することを適当と認める。